

愛隣館研修センターニュース 第62号

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町151 2F TEL 075-621-3849 FAX 075-621-1579

E-mail :airinday@sunny.ocn.ne.jp 振替 01020-5-39321

編集発行所：社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター 発行責任者：平田 義

□「医療的ケア」ってなあに？ □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□ ～転換期を迎えた「医療的ケア」～ □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

皆さんは「医療的ケア」ということばをお聞きになったことがありますか？

痰を吸引したり、チューブなどを使って栄養をとったり、或いは人工呼吸器などの助けを利用しながら呼吸をしたり・・・などの一連の行為のことを「医療的ケア」と呼んでいます。これらを日常的に必要としている人の多くは、以前より「呼吸状態が安定する」「肺炎にかかるリスクが減る」「栄養状態が良くなる」などの具体的メリットによって全身状態が安定し、それによってより豊かで、可能性の広がりのある社会生活を送っておられると考えられます。

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□ **ところが**

これらの一連の行為について「あくまでも医療行為であるから、医師や看護師などの医療職のライセンスを持った人しかしてはいけない」という考えの人たちもおられます。特に政府や行政機関などの方に多い考えのようです。

一見すると「なるほどなあ」と感じるかもしれませんが、「医療的ケア」の担い手の中で、医療職が多くをしめるというケースは非常に少なく、**家族が全面的に担っている**と言ったほうが、より現状を反映していると思われれます。

特に在宅で家族や地域の仲間達との生活を送っておられる場合は顕著です。家族の場合は、ライセンスを持っていなくても問題視する事は少なく「家族だから」ということで黙認されています。

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□ **言いかえると・・・**

行政などの姿勢は「本来は医療職がすべきであるが、医療職を24時間すべての家庭に配置するのは予算上できないので、家族にその分の労働力を提供してもらおうとしているといえます。

つまり「そういう状態にある人(或いは家族)の**自己責任でやってください**」という姿勢だともいえるのです。

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□ **いうまでもなく**

障がい**は個人**の責任ではありません。**障がいと共に生きる上で必要なケア**については、基本的に公的なサービスによって担われるべきです。

しかし「医療的ケア」を必要としている人たちについては、公的なサービス(デイサービスや介護ヘルプサービスなど)の利用をかえて制限されるという現状があります。**家族が担わされているケアは、すでに「医療行為」ではなく、あくまでも「生活支援行為」として捉えていかないと家族以外のものが担えないし、それが結局のところ「障がいを個人の責任としている現状」から目をそらすことになっているのです。**

在宅生活を医療面から支える制度のひとつとして訪問看護制度がありますが、これは上限が週3回・1回90分と言われています。現在の公的サービスとして看護師がケアを担うのは、週168時間の中

の4時間30分にすぎないのです。また訪問看護制度の利用に限られることもあり(介護保険の適応がある人は別ですが・・・)、残りの時間は家族しか担う人がいないということになってしまい、家族の物理的・精神的・肉体的負担は想像を超えるものになっています。

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□ **「医療的ケア」は**

当事者にとって、より安全に食事をしたり、より楽に呼吸が出来るための一連の手段です。

例えば視力が低い人がメガネをかけるように、足が不自由な人が車椅子を利用するように、嚥下(食物などを飲み込むこと)が困難な人は経管栄養という手段を利用しているのです。それが「医療職でない」となると、医師や看護師が同行しないかぎり外にでかけることも出来なくなります。

映画館に医師がいますか？「Disneyランド」の看護師さんは、「医療的ケア」が必要な人に付き添って、園内を一緒に回ってくれますか？

日常生活でも、常に医師や看護師にそばにいてもらおうとすれば、いったいどれだけの費用が必要になることでしょうか？

せっかくより安全で快適な暮らしのためにある医療的ケアが、当事者の生活の場を狭めたり、可能性やチャレンジの機会に扉をするものになっているとしたら本末転倒ではないでしょうか？

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□ **厚生労働省は**

この春からやっと重い腰を上げ「医療的ケア」について医学的・法律学的整理を行っています。

9月には、**養護学校などで教員が医療的ケアを行うことについて、一定の条件下で「違法性が阻却される」という結論を出しました。**現在は在宅における医療的ケアについての検討がなされていて、年度内には結論を得る予定です。

ぜひ当事者の視点に立った議論がなされ、当事者への支援が適切に実施できるような研修制度も含めた、実り多いものとしてもらいたいものです。

(篠原)

今年も「泊旅行」の旅

今年の「泊旅行」は、南紀・白浜へ行って来ました(〇〇) 観光バス2台に分乗し、「行って来ま〜す!」…と思いきや平田所長が忘れ物(〇〇)気を取り直し、いざ白浜へ!! 何やら早速、ビールを飲む音も聞こえていますよ! 名神高速、近畿・阪和道に乗り、一路、和歌山へ! まずは、紀州南部ロイヤルホテルで豪華昼食を「いただきます〜す!」(〇〇)! 海を眺めながら美味しい中華料理などを堪能。



←カラオケ!
三段壁で
ハイポーズ



再びバスに乗り、宿泊地・ホテル古賀の井に到着。早速、温泉へ♨️ 女性のみバリアフリー浴場・ほかほかの湯貸し切り、シャワーキャリー(入浴用車椅子)で、そのまま湯船に浸かったUさんも大満足「あったまるわあ〜」(〇〇)の〜んびり浸りたい気分ではありましたが、絶景を見に行くため、急ぎ足で三段壁へ!

エレベーターで降りること30分。沈みゆく夕日や、鍾乳石等を観賞しました。(誰だ、木魚で遊んでいる人は!)

夜はもちろん大・宴・会!!「待ってました!」(〇〇)お造り・お寿司に鯛しゃぶ、その場で揚がる天ぷら食べ放題! 田中スタッフの制止も振り切りひたすら呑む呑むYさん! ほどよくお腹に納まる頃にはカラオケ大会が始まり、しゅ〜い歌声やデュエット、はたまたアニメソングまで! 最後は皆で「世界に一つだけの花」を熱唱♪

皆さん、よく眠れましたか??(誰ですか、夜中にこっそりラーメンを食べに出た人は!)



翌日はアドベンチャーワールドへ! 時間の都合で、サファリかマリンか、どちらかのワールドしか回れませんでした。オルカのショーに「感動!」(〇〇)双子のパンダに「かわいい〜!」(〇〇)ペンギンが群れているのに「ちょっと怖い…」(〇〇)と様々な声が聞こえる中、さん(ペンギン)は念願のエンペラーペンギンの赤ちゃんにご対面! 皆さん楽しんでいただけたようです。

↑楽しんで…ますヨ!

その後、お土産を「とれとれ市場」にて購入!(〇〇)おや、N1さん、大きな箱をお持ちですねえ! N2さんもずいぶん大きな箱ですこと! 帰りのバスは、あら…皆さん、グッスリとJazz お疲れ様でした! 初参加の為あまりの盛り上がりぶりにチョットビビりつつ…でも最後まで楽しませていただきました! (松野)

障がい児・者ホームヘルプ事業「ゆうりん」

★ 行ってきました、学園祭 ★ ~ガイドヘルプ部門~

11月はあちらこちらの大学で学園祭があったので、ゆうりんからもたくさんの方がお出かけしました。各サークルが模擬店やイベントをおこなっているため、興味や関心が個々に違うメンバーにとっては同時に楽しめる場所でした。

食べることが大好きなNさんは、キャンパスに入った途端、両側に並ぶ模擬店に大興奮。物を作ることが好きなR君は、最初はあまりにも大勢の人に緊張していましたが、着ぐるみと記念撮影したり、自分で作ったミサンガを得意気に見せてくれたりととても楽しんでいました。→また、音楽が大好きなYさんはマンドリンサークルを見学。観客はゆうりん御一行様でほぼ貸切状態でした。実際に楽器を触らせられたり、こちらのアンコールにも気さくに応えてくれました。



←あまりにも喜んでいたYさんは、特にお兄さんが弾いているギターが大変気に入ったようで、少しずつ近づき半径30cmのところまでくぎるように見つめていました。楽譜にはないお気に入りのキラキラ星まで演奏してくれ、大興奮でした。

低価格でこんなにも楽しませてくれる学園祭が、毎月あったらいいのになあ〜(大島)

◆ ある日の出来事… ◆ ~居宅支援部門~

居宅介護に伺うようになって早数ヶ月。最初は、とにかく冷や汗の連続だった。某月某日、60代半ば一人暮らしの男性住宅。夕食に「酢豚」というリクエストを受け、はたと考え込んでしまった。一え一つと…一人分の量ってどのくらいだったっけ…。

なにせ我が家は食べ盛りの子供が4人。夕食だけで米七合を炊き、鍋などしょうものなら、白菜一玉、大根一本は当たり前、まさに毎日が“炊き出し状態”の家庭である。だから久々に大皿料理を少しだけ作る見当がつかず、控えめに作ったつもりだったが、結局出来上がりは鍋一杯の熱々酢豚…。うなだれて平謝りする私に「ま、えーわいな。明日の昼にも食べるし。」と許して下さった利用者さんの視線は鍋に釘付け、声も心なしに震えていたような気さえた。

こんなふうに、ヘルパーとは言いつつも周囲の方々に温かくヘルプしていただきながら「日々是学習」の心境で励んでいる。(岡本)

重心通所B型「シサム」・デイケア

☆☆初の企画！夜間プログラム☆☆

9月24日(金)より4回に分けて、『夜間プログラム』という初の企画をしました。多くのメンバーは夜間に外出する機会が少ないです。「同年代が行く夜の街を楽しみ、その間家族のレスパイト(休息)を」これが企画のねらいです。

通常のデイケア・サムの活動後、夕方から京都四条界限へ。ネオン輝く街を車イスでメンバーが歩く。人通りの多さを喜んで、車イスから降り一緒に歩いたMさん。逆に人通りの多さからか、泣き出しそうなHさん。綺麗な女性にばかり見とれるKさんなど。普段の活動では見られない素顔をいっぱい表わしてくれました。(井桁)

さあ、行くぞ！

☆☆初の参加！一泊旅行☆☆

僕は以前、療護施設で働いていたので、障がい者の外出、地域参加の重要さを常に考えていました。が、デイケア・サムのような、いわゆる重症心身障がい者の外出は、想像もしていませんでした。しかも、今回はただの外出ではなく、一泊旅行でした。

参加したメンバーは、いつもよりも食事を食べるし、痰は少ないし、食後のカラオケではリリで歌うし、と日常とは違う様子をたくさん見る事ができました。

神戸市立フルーツパークの対応は利用して気持ちの良い対応でした。食事は利用者に応じて、キザミ食の用意だけでなく、その場で「もう少し細かく」という要望も聞き入れて下さいました。メンバーも、スタッフもこの対応にはとても嬉しく、このような対応してくれる宿泊施設がもっと増えていくことを願います。

いい湯だなあ～

『バリアフリー』という言葉が近年浸透してきました。これは単なる物理的なバリアーを取り除けば解決するものではなく、心のバリアーをどう取り除いていけるかが大きな課題だと思います。デイケア・サムのメンバーが当たり前前に街へ出て行き、生き生きとした様子を表わしていくことが、社会を変えるのだと強く思いました。また外出の企画はメンバーにとっても、多様な場面に対応できる強さを身に付けるいい機会になります。今後、彼らにとつての『自立』も視野に入れて、外へ出て行く企画をたくさん経験していきたいと思っています。(田中)

京都市南部障がい者地域生活支援センター「あいりん」

支援センター「あいりん」が、リニューアルして早いもので約8ヶ月が過ぎました。…？ということ、私が、愛隣館で働き始めて8ヶ月…月日が流れるのは早いものです。あ、自己紹介を忘れていました。4月より勤めています。鮫島(さめじまちゃうし、さめしまね！)です。鹿児島→長崎→奈良と漂流しながら、4月に愛隣館へ流れ着きました。自己紹介はさて置き…

「あいりん」の役割は、障がいを持つ方々の生活・人生にそ〜と…時には荒々しく…強引に？寄り添わせて頂くところにあります。ご本人やご家族から生活全般の相談を受けたり、事業所を紹介したり…地域生活を総合的に支援するということですね。

この8ヶ月間は、私も支援センター「あいりん」も後ろを振り返る間もなく…突然、未知の世界に迷い込み、時折困難に遭遇し…でも、多くの人に出会い、その人たちに支えられ…少しずつ成長できている気がします。

「はあ〜やっつとひと段落できるわ(^_^)」と思ったら、更に手強いケースが…と、ゲーム終了寸前のモグラ叩きの様な相談状況です…でも、よく考えるとそれだけ、支援センターが地域に知られて来たってことでもあるんですよ。これから、もっと地域の皆さんに支援センター「あいりん」のことを知って頂けるよう努力して行きたい？生きたい？と思います。

ただ、悩みが1つ。同敷地内のN保育園から聞こえる楽しそうな笑い声や歌声とは逆に…愛隣館の片隅にある事務所(15帖程の部屋)に…実は、とっても寂しいのです(;;)皆さんプ〜ッと遊びに来て下さい。お茶とお菓子なら常備されています！

これからもよろしくお願ひしますm(_ _)m

2004年7-12月行事報告

- 7/25 SIEA 開校式(第26回)研修生4名がインド・マイソールへ
- 8/20-21,27-28 ゆうりんキャンプ in 琵琶湖トリートセンター
- 9/2-10 SIEA タイチナー(総勢10名でタイ北部・チェンマイ・バンコクへ！)
- 9/10,13,15,21 BBQin 愛隣館
- 3F テラスにて大盛り上がり！ →
- 9/22 イエス団京都ブロッグ職員研修会
- イエス団理事岡山孝太郎氏をお招きし
- 「キリスト教社会福祉とは」をご講演頂きました
- “共生”と“連帯”からなる社会変革を！
- 9/24 バリアフリーネットワーク
- 宇治小公判経過確認と今後について
- 支援費・介護保険統合の行方について
- 情報交換(洛西の畑で取れた自然の恵を分かちました。不健康の代名詞的存在であったT氏、早朝の畑仕事で日焼けし、精悍な顔つきに！)
- 9/28,29 キリスト教基礎講座 黒多牧師による連続講座です
- 11/21 向島につこりフェスティバル！
- おかげさまで大盛況に終わりました。↓今年のピンゴマンご協力ありがとうございました！

『世紀』の楽団! みよにの大盛況ぶり!

- 11/26 バリアフリーネットワーク
- NPO 法人大木庵代表竹内早代さんのお話し
- 制度にとらわれず自由な発想で素敵な空間をプロデュースされています。是非一度訪ねていきたいーい(byH.T.)
- 12/5 医ケアネット京都 in 亀岡
- 12/7,8 キリスト教基礎講座 黒多牧師連続講座第2回目です
- 12/12 SIEA 閉校式
- イト 研修生報告(一人だからこそ感じられることがある！)
- タイイチナー報告(同じアジアの違う文化を持つ人と出会いから感じること)

クリスマス献金のお願い



日頃は、当センターの活動をご理解頂き、様々な形でご支援を賜りまして誠にありがとうございます。

当センターでは、障がい児・者とその家族とが地域で生き生きと安心して暮らしていくために、様々な活動を展開してきております。1990年の「生活センター設立準備会」から始まり、障がい者デイサービス事業の「愛隣デイサービスセンター」が1993年に、また、1999年には「向島障がい者地域生活支援センター『遊隣』」が2002年には重症心身障がい者通所事業B型「シサム」、地域生活支援センター「あいりん」が設立されました。お金や制度がない中でも、障がい児・者とその家族とが、地域で自らの尊厳が守られて生きていきたいという切実な思いに微力ながら応えてきました。それが続けられたのも、ひとえに皆さま方からの暖かいご支援とご協力のたまものであると感謝いたします。

この10月に、厚生労働省は今後の障害保健福祉施策についてのグランドデザイン案を公表しました。またまた大きな変革の時を迎えようとしています。障がいを持つ人のみならず、すべての人が大事にされる社会を目指して歩んでいきたいと願っております。その実現のために、今年度も「愛隣館研修センター・クリスマス献金」にご協力頂きますよう、改めてお願いを申し上げます。

クリスマス献金、目標金額

1, 000, 000 円 ※ 口数、金額ともに任意です。

送金方法

※ 以下の口座をご利用ください。

郵便振替

01020-5-39321

口座名：社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター



☆お知らせ☆
▽愛隣館研修センターは、十二月二十九日〜一月四日まで冬期休館日とさせていただきます。

★編集後記★
▼「62号・冬号」なんと完成！◇伝わりますでしょうか私たちの思い：◇今回は新しいスタッフたちに報告を書いてもらいました◇いかがでしょうか？◇ご意見・感想をお聞かせ下さい◇個人的には「M>タイセミナー」充実してましたよ◇皆さんもいかがですか？とだけ報告させていただきます（さ）

★所長より★
▼今年も激動の年でした◇度重なる台風・地震の襲来◇今も多くの人が爪あとに苦しんでいる◇イラク派兵◇強引に押し進めた結果、一人の若者の命が奪われた◇沖繩辺野古での基地建設◇命を賭けて闘いを続けている◇被災地には多くのボランティアが被災された人々の暮らしを守るために集まっています◇人々の篤い思いが伝わってくる◇一方、この国は人々の命を守る方向には向かっていないと感じる◇今こそ私たちの思いを結集して、「命こそ宝」の時代を築きたい（ひ）